

ふるさとわがまちづくり

千鳥自治区

◆「千鳥」の町並み

千鳥自治区は市の中心に位置し、東海自然歩道が通るなど自然に恵まれた山間の自治区です。東海自然歩道沿いには、千鳥寺があり、応永元年(1394年)の建立で、曹洞宗の中本山として有名です。

当区の地形は、山間の小さな盆地状のため、昔から水には恵まれた地として、米づくりが行われてきました。当区の米は現在でも昔ながらの味を失わず、美味しいという評判です。狭いながらも良質な米どころの閑静な山里として歴史の歩みから取り残されたように歳月を経てきた感があります。

また、一昔前まで、松茸の本場として近辺にその名を知られ、最盛期の昭和時代には、夜明け前に採取してきて、大八車で名古屋や瀬戸へ出荷したものです。その頃は桑つかみカゴに2杯程の松茸が、難なく採取できたのですが、伊勢湾台風以後は、嘘のように採れなくなりました。



◆千鳥の農業

『勘ハスイカ』が有名な頃は、良質なスイカが収穫されており、スイカの味が買われ、当区のスイカも『勘ハスイカ』の名で出荷されてきました。

現在でも、石野つくばね市民農園を始め、当区で農業を営む人がたくさんいます。しかし、最近ではイノシシなどが田んぼや畑を食い荒らし、農家泣かせが続いています。



石野つくばね市民農園

◆課題

当区の課題は、東海自然歩道と古寺など、自然環境に恵まれた区としての発展です。

コジュケイやキジが鳴く自然環境は、破壊するよりも保護しなければならぬと思っています。

また、世帯数こそ大幅に減っていませんが、当区にも少子高齢化の波が押し寄せています。



千鳥町区民会館



千鳥寺



白山神社

千鳥自治区データ

(H20.4 現在)

世帯数：20世帯
：18世帯(昭和52年)
組数：2組
面積：0.789K㎡
自治区たより：「千鳥・成合自治区だより」
年3回
回覧：月2回
防犯灯設置箇所：10箇所
小学校：上鷹見小学校区
自治区会館：千鳥町区民会館